

# 令和3年度 公共事業再評価調査書

担当部/課名	都市整備部 公園河川課
--------	-------------

再評価実施要件	<input type="radio"/> 未着手 (5年) <input type="radio"/> 長期間継続 (5年) <input checked="" type="radio"/> 再評価後 (5年) <input type="radio"/> その他 ( )
---------	--

## I 事業概要

事業種別	河川事業	事業方法	<input checked="" type="radio"/> 国補助 <input checked="" type="radio"/> 県補助 <input type="radio"/> 市単独																		
事業名	貴船川都市基盤河川改修事業	事業箇所	海に至る場所～左岸:青森市大字野内字菊川128番1地先 右岸:青森市大字野内字鈴木26番地先																		
採択年度	平成 16 年度 ( 用地着手 平成 16 年度 / 工事着手 平成 21 年度 )																				
終了予定年度	令和 13 年度																				
事業目的	<p>貴船川は、本市東部の大平山に源を發し、山間部を西流して矢田地区、野内地区の水田地帯を流下し、陸奥湾に注ぐ流域面積約14.9km<sup>2</sup>、流路延長約6.6kmの河川である。</p> <p>河口から一般国道4号にかけては、河積が狭小であり流下能力が著しく低いことから、これまで幾度となく洪水被害を受けており、抜本的な河川改修による治水安全度の早急な向上が望まれたことから、平成4年に河口から3.6kmまでを準用河川に指定し、平成5年より河川改修事業に着手した。その後、平成11年、平成14年のさらなる洪水被害を受け、整備を早める必要性が高まったことから、平成16年に河口から上流700mの区間を二級河川に格上げし、都市基盤河川改修事業により治水安全度を早期に高めるものである。</p>																				
主な内容	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">区 分</th> <th style="text-align: center;">再評価時(2回目)</th> <th style="text-align: center;">再評価時(3回目)</th> <th style="text-align: center;">増 減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① 計画延長</td> <td style="text-align: center;">700.0 m</td> <td style="text-align: center;">700.0 m</td> <td style="text-align: center;">0.0 m</td> </tr> <tr> <td>② 計画幅員</td> <td style="text-align: center;">河口部40.5m～上流部33.4m</td> <td style="text-align: center;">河口部40.5m～上流部33.4m</td> <td style="text-align: center;">0.0 m</td> </tr> <tr> <td>③ 事業費</td> <td style="text-align: center;">4,500百万円</td> <td style="text-align: center;">7,000百万円</td> <td style="text-align: center;">2,500百万円</td> </tr> </tbody> </table> <p>※事業量や総事業費の増減に係る説明等を記入。          ( 事業費の増は工事費の見直し等によるものである。 )</p>					区 分	再評価時(2回目)	再評価時(3回目)	増 減	① 計画延長	700.0 m	700.0 m	0.0 m	② 計画幅員	河口部40.5m～上流部33.4m	河口部40.5m～上流部33.4m	0.0 m	③ 事業費	4,500百万円	7,000百万円	2,500百万円
区 分	再評価時(2回目)	再評価時(3回目)	増 減																		
① 計画延長	700.0 m	700.0 m	0.0 m																		
② 計画幅員	河口部40.5m～上流部33.4m	河口部40.5m～上流部33.4m	0.0 m																		
③ 事業費	4,500百万円	7,000百万円	2,500百万円																		
事業費	(単位:百万円)																				
		～平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	小計	令和4年度～	合計													
○事業費		1,744	51	51	46	1,892 (a)	5,108	7,000 (e)													
うち①用地費		976	8	11	45	1,040 (b)	41	1,081 (f)													
②工事費		387	0	0	0	387 (c)	5,004	5,391 (g)													
③その他		381	43	40	1	465 (d)	63	528 (h)													

## II 評価指標及び項目別評価

### 1 事業の進捗状況

事業の進捗状況	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2" style="text-align: center;">計画全体に対する進捗</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="background-color: #e0f7fa;">○事業費割合</td> <td style="text-align: center;">27.0 % [(a)/(e)]</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #e0f7fa;">  うち①用地費</td> <td style="text-align: center;">96.2 % [(b)/(f)]</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #e0f7fa;">  ②工事費</td> <td style="text-align: center;">7.2 % [(c)/(g)]</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #e0f7fa;">  ③その他</td> <td style="text-align: center;">88.1 % [(d)/(h)]</td> </tr> </tbody> </table>	計画全体に対する進捗		○事業費割合	27.0 % [(a)/(e)]	うち①用地費	96.2 % [(b)/(f)]	②工事費	7.2 % [(c)/(g)]	③その他	88.1 % [(d)/(h)]
計画全体に対する進捗											
○事業費割合	27.0 % [(a)/(e)]										
うち①用地費	96.2 % [(b)/(f)]										
②工事費	7.2 % [(c)/(g)]										
③その他	88.1 % [(d)/(h)]										
説 明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本事業は、平成16年度に事業着手し、同年度より用地買収を、また平成21年度から工事を実施してきた。</li> <li>・昨年度までに3号橋(鉄道)までの用地買収及び移転補償並びに2・3・4号橋の修正設計を完了し、今年度は3号橋(鉄道)施工に伴う、仮設道路を作るための貴船神社の用地補償を行っている。</li> </ul>										
問題点 解決見込み	・無し										
事業効果 発現状況	・事業の中核である3号橋(鉄道)架替え工事に向けての進捗が図られた。										

## 2 社会経済情勢の変化

必要性	・事業着手後の平成16年に浸水面積約30ha、浸水家屋6戸の浸水被害があり、また、平成19年には浸水面積約30ha、浸水家屋8戸の浸水被害が発生していることから、浸水被害の防止、軽減を図るため早急に事業を進め、当該河川の治水安全度を高める必要がある。
適時性	・昨年度に発生した「令和2年7月熊本豪雨」による球磨川、最上川等の氾濫を受けて、河川洪水等の安全に対する期待は高まっている。
効率性	・下流側から用地買収を行い、3号橋までの用地買収及び移転補償を完了し、順次工事に着手している。下流側から河川改修を行うことで効率的に流下能力を高め、治水安全度を上げる効果がある。

## 3 費用対効果の分析

費用便益比	区分	主な項目		
	費用項目(C)	① 事業費	6,766	百万円
② 維持管理費		899	百万円	
③			百万円	
④			百万円	
⑤			百万円	
総費用		7,665	百万円	
便益項目(B)		① 被害軽減期待額(便益)	71,746	百万円
		② 堤防等残存価値(便益)	240	百万円
		③ 護岸等残存価値(便益)	24	百万円
		④ 用地費残存価値(便益)	13	百万円
	⑤		百万円	
総便益	72,023	百万円		
費用便益比(B/C)	費用便益比(B/C)	9.40		

※費用対効果分析の根拠等  
 ・「公共事業評価の費用便益分析に関する技術指針(共通編)」(平成21年6月、国土交通省)  
 ・「治水経済調査マニュアル(案)」(令和2年4月、国土交通省 水管理・国土保全局)  
 ・「治水経済調査マニュアル(案)各種資産評価単価及びデフレーター」  
 (令和3年3月改正、国土交通省 水管理・国土保全局河川計画課)

## 4 コスト縮減や環境配慮などへの検討

コスト縮減等	・アスファルトや碎石に再生材を利用し、環境負荷の低減とコストの縮減に取り組んでいる。 ・河川環境に配慮し、多自然型環境ブロックを用いた護岸整備を行っている。
--------	---

## III 対応方針(事業実施主体案)

総合評価	● 継続実施                      ○ 計画変更して実施                      ○ 事業中止                      ○ 事業休止
評価理由等	貴船川流域について、近年では平成11年、平成14年、平成16年、平成19年と数年ごとに繰り返し洪水被害が発生していることから、当該事業の実施による治水安全度の向上を図る必要があると判断し「継続実施」とした。